

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぐ住之江		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心・安全に過ごせる環境作り。	学習と遊びで空間を分けること、活動時には利用児童の場所を立ち位置等を決めて安全な間隔を確保できるように工夫している。また、利用児童にとって安心できる居場所にするために日々の出来事について話す機会を設けて関係性の構築に努めている。保護者との面談を通して支援について共有し、安心して利用していただけるように取り組んでいる。	遊びの中で、児童とより一層関わる時間を確保できるように取り組み、保護者との面談時に効果的な関わりや支援方法についての相談が行えるように取り組む。児童には空間を広く使った遊び方を提案し、安全にたいする意識などを育むことができるように支援する。
2	個々に合わせた支援の提供。	児童の様子を細かく観察し、保護者や児童のニーズを把握することで、個性や特性に応じた支援計画を作成・実施している。実施した支援については日々の共有することでより良い支援方法を考えて関わっている。様々なことに挑戦し自己肯定感を育めるよう、小さな成功体験を積むことを支援している。	日々の細やかな関わりや観察を大切にし、保護者や児童のニーズの把握に努める。関わりの中で小さな変化や気づき、効果的であった関わりについてより細かく共有していき、支援方法について考えていく。
3	個別活動と集団活動の実施。	個別活動では個性・特性に合わせた取り組みをし、スモールステップで取り組むことができるように工夫している。集団活動では年齢に捉われずに児童同士の関わりも大切にして、集団活動における役割やルール、社会生活におけるルールを学ぶ機会を設け、生きる力を育むことができるよう支援している。	個別の活動における課題のスモールステップをより細分化し挑戦意欲を引き出すように努める。集団活動においては児童同士が話し合い、役割やルールを決めるなどの自己決定の支援も継続していく。社会生活でのルールについては引き続き楽しく学べるように工夫する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への各種対応マニュアルや研修・訓練などの情報共有。	契約時に重要事項説明書等に加えて口頭でも説明を行っているが、定期的に行っている研修の様子を周知することや、マニュアルの周知が不足している。避難訓練の様子等はSNSを通して公表しているが、SNSの周知徹底ができていない。	契約時の説明だけでなく、面談時に再度マニュアルや取り組みについて周知することや、SNSでの周知を個別で周知するなどより確実な方法に変更する。SNSについては更新時に個別で伝達するなどの工夫を要すると考える。
2	保護者の会や参観などの開催。	今年度は夏祭りやハロウィンなどの行事に保護者にも参加してもらい、保護者同士の関わりを持つ機会や児童の様子を見てもらう機会を設けることができた。行事のみならず、日常の様子を見てもらう機会を設ける必要性を感じた。	面談時に保護者に児童の様子を見てもらう時間を設けることで、普段の取り組みや児童同士の関わりについて知ってもらう機会とする。また、保護者参加型の行事を継続して開催することで児童・保護者ともに楽しめるような取り組みを検討する必要がある。保護者が参加しやすいよう事前に日程や時間の調整を行うなどの取り組みが必要だと考える。
3	保護者に向けた研修等の開催。	保護者に向けた研修会を開催したことがなく、研修内容について保護者のニーズの把握も不足している。また、地域の勉強会や研修会などの情報収集も不足している。	面談時などに聞き取り調査を行うことで保護者の知りたいことやニーズについて情報収集をする。また、自立支援協議会の子ども部会に参加しており、そこで地域の勉強会などの情報を収集し、そこで得た情報を保護者に周知する。